

会員サイト公開用 役員活動報告書

名 前	板倉尚子
担当業務	【310】保健領域業務推進事業（学校保健および母子保健領域） 【313】動物に対する理学療法への推進に向けた関係団体連携事業

内 容			
日 付	他団体	会議名	場 所
01月10日(土)		出 席：第7回理事会	日本理学療法士協会会館
01月23日(金)		視 察：東洋英和女学院小学部体育授業参観	東洋英和女学院小学部（東京都）
02月06日(金)		視 察：競走馬総合研究所	競走馬総合研究所（栃木県）
02月08日(日)		出 席：第4回理事懇談会	WEB
02月17日(火)	○	出 席：テクノエイド協会理事会	WEB
02月17日(火)		打合せ：職能推進課および動物に対する理学療法部会	WEB
02月18日(水)		出 席：動物に対する理学療法に係る意見交換(海外有識者)	WEB
02月19日(木)		意見交換：森尚志獣医師（日本獣医師会小動物職域担当理事）	ダクタリ動物病院（京都府）
02月24日(火)		出 席：第7回業務執行理事会	WEB
03月07日(土)		出 席：第8回理事会	日本理学療法士協会会館
03月11日(水)		打合せ：職能推進課（学校保健事業）	WEB
03月18日(水)		視 察：TCCセラピーパーク	TCCセラピーパーク（滋賀県）
03月19日(木)		出 席：第2回学校保健部会	WEB
03月24日(火)		出 席：第8回業務執行理事会	WEB
03月27日(金)		打合せ：職能推進課（学校保健事業）	WEB
03月31日(火)		打合せ：職能推進課（動物に対する理学療法事業）	WEB
所感	<ul style="list-style-type: none"> ・日本獣医師会小動物担当職域理事への面会（情報共有および意見交換） <p>日本の小動物獣医療は、1980年代に日本動物病院協会設立を契機として米国型獣医学が導入され、高度化・専門分化が進展した。バブル期には病院数が急増し、2000年代以降はCT・MRIの普及や歯科・リハビリ領域が拡張した。一方、2011～2012年頃をピークに飼育頭数は減少し、飼育者の高齢化やコスト上昇を背景に経営負担が増大、M&Aや閉院が地域医療へ影響を及ぼしている。需要はライフコースに伴う波を持ち、近年は猫の増加が顕著である。教育現場での動物接触機会の減少も将来的需要に影響する。実務上、動物は保定・安全管理が不可欠であり、人医療と異なるリスク対応が求められるほか、飼い主との関係構築力が重要である。法的には、日本獣医師会を通じ農林水産省へ照会し、2026年2月18日付で「獣医師の具体的</p>		

	<p>指示下での補助的実施は直ちに無資格診療と評価されにくい」との整理が示された。これにより限定的協働の実務的可能性が明確化した。今後は法改正を急がず信頼関係を基盤に、獣医師参画による教育カリキュラム整備、非常勤モデル導入、継続的協議を通じて段階的に協業体制を構築する方針である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・競走馬総合研究所の視察 <p>ウマのリハビリテーションに関わる研究活動の情報収集を行うとともに、ウマ領域における動物理学療法の可能性と課題の整理を目的に、競走馬総合研究所の視察を行った（2026年02月05日）。日本では年間約7,000頭のサラブレッドが生産され、その多くが競走馬となるなど、「ウマ＝競馬」というスポーツ中心の文化的特性を有する。一方、欧米では乗馬や伴侶動物としての位置づけが強く、海外理論の直接導入は困難と考えられる。現状、獣医師が多職種機能を包括的に担っており、理学療法士の専門性が発揮される環境は限定的である。今後は獣医師との連携のもと、日本の競技特性に即した独自モデルを模索するとともに、ホースセラピーや騎乗動作解析、関係者の労働衛生支援等を含む包括的視点で検討を進める必要がある。</p> ・TCCセラピーパークの視察 <p>愛玩動物や馬に対する情報収集をおこない、理学療法士の参画・推進に向けた検討をすすめている。この情報収集の一環として、有識者からの紹介のもと、馬の福祉および療育の活動を先駆的に取り入れられている、TCCセラピーパークへ視察をおこなった。引退直後の競走馬の一時的な療養・保護施設（ホースシェルター）となり、牧場など次の受け入れ先への引き渡しをおこなう施設。また療育の場として、放課後等デイサービス・児童発達支援事業を実施し、ウマを介した療育の実践をおこなっている。同施設の在籍職種は理学療法士（2名）・作業療法士・保育士・精神保健福祉士等が在籍している。理学療法士の職能の可能性のひとつとして、参画にあたる一定の指針を示しながら事例の横展開をすることで、本領域の理解の広がりや参入のきっかけづくりとなる可能性が感じられた。</p> ・東京都内私立女子小学部の「運動と身体」の授業視察 <p>授業内容は安静時および運動後の脈拍測定を中心に、心臓の働きや年齢差等へ言及し、身体変化を数値で確認する体験的学習が展開された。運動の効果は身体的・社会的・精神的側面から整理され、身体表現と言語文化、さらにオリンピックの理念と平和の関連にも触れられた。既存カリキュラムとの接続性は高く、理学療法士は体験活動の深化や身体反応理解の支援等、教育的枠組み内で補完的に関与し得る可能性が示唆された。</p>
<p>報告日</p>	<p>2026年04月06日</p>

※「他団体」に○がついている項目は、本会役員として他団体に関与しているものです。